



留学生工場見学会より：イトムカ鉱業所

### 目次

- ドイツ語学研修
- 新しい留学生を迎えて
- 国際ナショナルCアワー
- 留学生 工場見学会
- 「アジア子ども映画祭」  
大学訪問&交流会
- 今後の予定



# ドイツ語学研修

フライブルグ大学：9月1日～9月30日

## 古館 真衣 (機械社会環境工学系・1年)

私は、今回の研修を通してドイツ語を上達させたのはもちろんですが、様々な国の人と関わることにより英語も上達させることができました。そして、様々な国から来た学生たちと関わることにより、色々な場面で文化の違いを発見しました。また、研修中に色々な場所に行き、ドイツの文化、歴史も学ぶことができました。今回、研修で学んだことを今後に生かすことができたら良いと思います。

## 松本日和 (機械社会環境系・1年)

私は海外経験が全くなく、英語も全然できないため、ドイツへ出発する前は、不安で仕方ありませんでした。しかし、語学研修を終えて、日本に帰ってくると本当にあっという間の一か月でした。大学のあるフライブルクだけでなく、ドルトムントやボン、フランスのストラスブール、スイスのバーゼルの観光や、ドイツの伝統料理など、すべてが素敵な思い出です。また必ず行けるように、言葉の壁を越える努力を続けたいと思います。

## 藤井貴大 (バイオ環境科学科2年)

今回の研修で様々なことを学ぶことができました。日本では、絶対にできない経験でした。まずは、言葉の大切さを学ぶことができました。いつも当たり前のように使っていますが、伝わらないととてもつらく大変でした。しかし、日々勉強していきだんだん分かっていくと結構うれしく思いました。また、今回の研修で海外の友達や研修中に知り合った日本の友達など本当に多くの友達ができたので、よかったですと思いました。

## 矢野有希 (マテリアル工学科・3年)

ドイツでの1か月の語学研修では様々な経験をする事ができました。授業ではドイツ語を勉強し、友達とは英語を使って話していたので、一度に2か国語を勉強することができたように思います。毎日の生活を送るだけでもドイツの文化に触れることができ、日本との違いを感じました。また、1か月間で観光もたくさんでき、とても楽しかったです。長いようであっという間に1か月が過ぎていきました。この1か月間で学んだことをこれからの人生に役立てていこうと思います。

## 樋口 祐一郎 (マテリアル工学科エココース専攻・3年)

今回の留学を終えての感想を一言で言うならば日本とはまるで別世界で非常に充実した1ヶ月でした。というのも写真やテレビでヨーロッパの街並みや歴史的建造物を見たことはあっても実際に間近で見ると何倍も迫力があり、小さい頃に絵本に出てきた家々が3次元で見れたことは個人的にとっても感動しました。また食べ物もおいしく、治安も思っていたより悪くなく良い意味で期待を裏切られることが多かったです。まとめるとドイツでの生活は自分の中での海外との距離をグッと縮めてくれると共に視野や価値観に変化を与えてくれた貴重な経験になったと思います。

## 萩原大稀 (機械・社会環境系・1年)

私は今回のドイツの語学研修で多くのことを学ぶことが出来ました。土日には、ノイシュヴァンシュタイン城に行ったり、フランスやスイスといったほかの国に行くことでそれぞれの国の文化に触れ、満喫した日になりました。最後の週には、友達と二人でカッセルという町まで行きました。行く途中は不幸の連続でしたが無事に着き、グリム童話博物館を見学したり、世界遺産のヴィルヘルムスヘーエ城公園の水の芸術を見るなど、この遠出は今までで最も成長できた瞬間だったと思います。今までは海外に行ったことがありませんでしたが、これからはほかの国にも行き、文化に触れ、街並みを見て回りたいと思いました。

## 木谷 優輝 (バイオ環境・マテリアル系・1年)

約1ヶ月、長いようで短い間でしたが、これから先、忘れることが出来ない最高の経験を積むことができました。日本では、絶対に食べれないであろう食べ物もあり、感動したし、とても美味しかったです。ドイツに行ったことは、自分の視野を大きく広げることができ、また行きたいという気持ちが大きくなりました。

## 近藤拓実 (バイオ環境・マテリアル系 1年)

今回僕たちが行ったフライブルク大学は500年以上の歴史のあるとても美しい大学でした。僕はドイツ語学研修中、色々な人と出会いその人たちの考えを聞いたり、素晴らしい景色を見たり、日本にはない習慣を学ぶことができたりととても良い刺激になりました。この一か月間は一生忘れることのできないとても貴重な経験になりました。

## 山本一輝 (バイオ環境科学科・2年)

私は今回のドイツでの語学研修で多くの事を知り、学びました。自身が将来国外に出た時を思うとやはり外国語を学ぶのは必然的になるのでより一層語学に精進していきたいと考えており、そしていつの日か世界中の人々と仲良くなり他国や日本の事について語っていきたくて願っています。

## 松浦 裕二 (バイオ環境・マテリアル系 1年)

この4週間で私は世界の広さを少しだけ知り、とても大きな経験を積むことができました。たった一言のアドバイスではありますが、日本には気付かず、得られなかったことだと思います。また、語学、コミュニケーションという意味では、自分が普段使っている日本語を見直す良い機会にもなりました。

## 近藤 太郎 (情報システム工学科・2年)

私は今回の語学研修で多くのことを学びました。一番驚いたことはドイツでは買い物をした後はどんな時も「ありがとう」「さようなら」を欠かさないことです。それらをいうたびにとても心が温まりました。日本でももっと意識しようと思いました。今回の研修を通して将来は外国の人々と仕事をしたいと思いました。そのためにも今後も外国語の勉強に精進していきたいです。



## 新しい留学生を迎えて

新しい留学生が19人、10月から加わった。オリエンテーションでは、履修登録方法の他に、「ゴミの分別」「冬季水抜き」などについても学んだ。日を追うごとに北見での学生生活に慣れてきた様子。生活、勉学、日本語などをサポートをしてくれているチューターの日本人学生と交友を深めて、充実した日々を送って欲しいと願っている。



**ピョン ソンウン (韓国)**

日本人と日本語を勉強したくて留学を決めました。貴重な経験を積みながら、韓国のことを日本の皆さんに伝えたいです。北見では、今まで知らなかったことをたくさん知る1年にしたいです。



**チャム チェン シェイラ (ペルー)**

北見の人々はとても優しいと感じています。日本語がわからない私を一生懸命助けてくれます。温かい歓迎にいつも感動しています。私は一生懸命に日本語を勉強して、優しさをお返しできるように頑張ります！



**バグダー アリ (トルコ)**

私はトルコから参りました。情報システム工学で研究生として北見での生活を始めました。趣味は映画を観ることです。北見工業大学で勉強することや生活することを楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。

## インターナショナル“C”アワー

### 「新しい留学生を歓迎しましょう！」

ハロウィンパーティー 10月17日(月)

アトリウムでの歓迎会には工大生の他、市民の皆様など総勢111名が思い思いの仮装でご参加くださり、華やかなハロウィンの雰囲気一杯となりました。10月に入学した13人の留学生は日本語で自己紹介をした後、「ミイラ」のゲームを楽しんだ。モンゴルからの留学生オトゴンジャルガルさんは130メートルのトイレトペーパーを巻かれて、「ミイラになるのは暑かったけど楽しかった！」と汗をかきながら話していた。



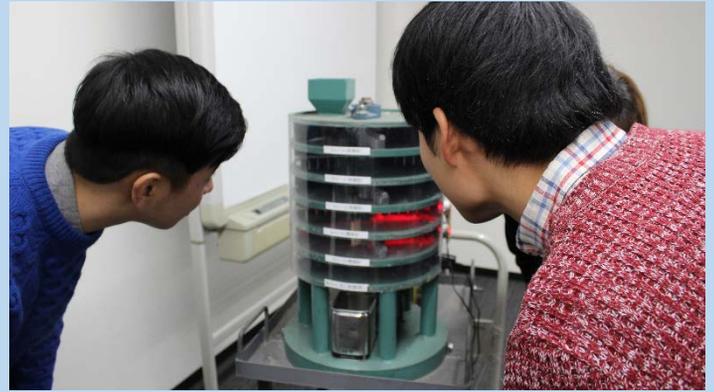
### 「ペルー共和国のお国紹介」

11月29日(火)

ペルーからの短期留学生シェイラさん(新協定校のラモリーナ国立農業大学から10月来日)が故郷のペルーについて発表した。ペルーの特徴として「多様性」があり、ジャガイモは約3,000種類、鳥は約1,800種類。日本のテクノロジーに興味があり留学を決意した。驚いたことは、大学のドアが「自動ドア」であること！日本の「焼肉」も大好き。発表してくれたシェイラさんと、ご参加くださった皆様、  
Muchas gracias!!  
(ありがとうございました！)



今年は留辺蕊町の「野村興産株式会社イトム力鉱業所」を見学した後、「山の水族館」へ立ち寄った。留学生22名と、チューター1名の合計23名が参加した。バスの中で自己紹介をしたり、車窓からの美しい冬景色を楽しんでいる内に到着した。留辺蕊町のイトム力鉱業所は、日本で唯一、使用済み乾電池のリサイクルを行っており、その他にも水銀を含む蛍光灯など様々な有廃棄物を安全にリサイクルしている貴重な鉱業所。



リサイクルされた金属水銀、亜鉛、マンガン、アルミなどの物質を実際に見学した後はヘルメット着用で工場内を見学した。廃棄物処理プラントで電池を分別する形状選別機や、水銀を気化させるロータリーキルンといった巨大な装置に感動していた。工学生にとって、使用済み廃棄物を安全に処理・リサイクルすることが大切であることや、環境のことを考えて「ものづくり」を行うことが重要であることなど、様々なことを考える貴重な経験となった。帰りは「山の水族館」に立ち寄り、滝つぼ水槽の写真撮影や、ふれあいタッチコーナーのドクターフィッシュを楽しんだ。ご対応いただいた野村興産イトム力鉱業所に心より感謝を申し上げます。

## アジア国際子ども映画祭に係る学校交流

11月28日(月)



「第10回アジア国際子ども映画祭北見大会」に招かれている各国からの生徒の内、ラオスとベトナムの高校生が来学した。工大の説明後、研究室見学を行った。「環境・エネルギー研究推進センター」ではメタンハイドレード、「冬季スポーツ科学研究推進センター」ではスキーシミュレーションとスキーブーツの開発、その他にはQVICなど、本学の研究内容に直に触れて体験した。

体育館において、本学の日本人学生と留学生を交えての交流会では、中国の留学生によるマンチャク演武、モンゴルの留学生による歌が披露され、弓道部による弓を引いた体勢「引き分け」体験が人気だった。空手道部は演武と体験ミニ稽古を行い、茶道部は浴衣の着付け紹介を行った。またラオスから来た高校生は、自分たちの民族衣装を披露し、最後は全員で大きな輪となり「サンバ北見ばやし」を踊って締めくくった。



### 今後の予定

◆留学生交流の夕べ 12月14日(水)  
18:00~  
於: 本学 コミュニケーションアトリウム

発行所: 北見工業大学国際交流センター  
住所: 北見市公園町165番地  
電話: (0157) 26-9370  
FAX: (0157) 26-9373  
E-mail: kenkyu05@desk.kitami-it.ac.jp



北見工業大学